

告冬

〔江戸鹿子二年中行事〕十月亥日 三ツあれば中祝

〔東都歲事記十四月〕上亥日 玄猪御祝儀○中貴賤餅を製し時食とす  
武家には白赤の餅を家の例に給るなり  
り町家にては牡丹餅等  
製す又中亥をも祝ふ等

〔源順集〕天元元年十月初の亥の日右大臣の女御のひをけどもにもちゐくだものもりてうちの女房どもにつかはす次でに大臣にもひをけ一つ奉らせ給ふ銀にゐのこかめのかたを作りてすゑさせ給へるにくは、れる歌

わたつ海のうきたる島をおふよりはうごきなき世をいたやけや龜

〔古今著聞集十八飲食〕同法印○泰覺ゐのこのもちをよめりける

なによりも心にぞつくゐのこもちびんぐすなる物とおもへば

〔執政所抄下月〕亥子御餅事毎亥日勤仕之 度別六外居寸法方一尺深八寸 餅二外居寸水永丸長 栗二外居寸 柿二外居寸 已上外居加之 上品紙八枚盛之二枚重 御強飯一合例折 五種 胡麻 大角豆 大豆 小豆 栗 深草小春日坏立紙盛之 居例折櫃 件事秉燭所課下家司調進御臺盤所料米及別三石 年預申成下文副廻文取所課下家司奉申執行家司之所課下家司憂大酌別也停止濫雜女致清淨勤之

〔言經卿記〕應仁二年十月廿六日、慶侍者持餅二片來、俗所謂亥子也。去年在西山時宗聯西堂來話次曰、太平御覽曰、十月上亥喫髓餅髓字何義此方亥子亦有故也。今年今月有三亥日、昨日下亥也。此方不必限上亥耳云々。  
セ遣了、此方祝詞如例了、寶壽院殿へ亥ハヨモタセ進了。